総　　説

１．はじめに

本学に入学した皆さんは，最初１年次で類に所属し，文系科目，国際コミュニケーション科目，理工系基礎科目，健康・スポーツ科目等の基礎教育を中心に受けることになっています。

今後は学科所属の手続きを行い，各学科に所属することにより，専門の学習を進め卒業を目指していくことになります。

学科所属については，入学当初から志望のはっきりしている方，入学後志望分野を決めた方もいると思いますが，皆さんの中には，志望分野をどうしようか考えている方のほうが多いのではないかと思います。

どの学科を志望するか，決意して申告等を行うことになりますが，各学科で行う「学科オリエンテーション」（日程等は裏表紙に記載）に出席し，かつ，助言教員やクラス担任の先生などとも相談し，所属希望する学科及び希望順位を確定して申告してください。本冊子はその一助として，今後の手続きの流れと，各学科の紹介を掲載しています。

なお，学科所属については，入学時に配布した当該年度の「学部学習案内」にも掲載していますが，詳細に本冊子に記載していますので，よく熟読してください。

２．学科について

２年次から所属する各類における学科（コース）とその所属人数は表－１のとおりです。

所属人数が，２つの類にまたがっている経営システム工学科，制御システム工学科の２つの学科及び２類から７類の社会工学科については，表－１に示すそれぞれの当該類から申告することになっています。

表-１　各類における学科（コース）と所属人数と学習課程

区分	類	学　科（コース）	所属人数	標準学習課程	
理学部	第1類	数学科	25	数学	標準学習課程
		物理学科	54	物理学	〃
		化学科	37	化学	〃
		情報科学科	34	情報科学	〃
		地球惑星科学科	35	地球惑星科学	〃
工学部	第2類	金属工学科	33	材料工学	〃
		有機材料工学科	20		
		無機材料工学科	30		
		社会工学科	2	社会工学	〃
	第3類	化学工学科（化学工学コース）	35	化学工学	〃
		化学工学科（応用化学コース）	35		
		高分子工学科	30	高分子工学	〃
		社会工学科	2	社会工学	〃
		経営システム工学科	11（第３類）	経営システム工学	〃

区分	類	学　科（コース）	所属人数	標準学習課程	
工学部	第4類	経営システム工学科	25（第４類）	経営システム工学	標準学習課程
		機械科学科	52	機械科学	〃
		機械知能システム学科	40	機械知能システム学	〃
		機械宇宙学科	40	機械宇宙学	〃
		国際開発工学科	*40	国際開発工学	〃
		社会工学科	4	社会工学	〃
		制御システム工学科	25（第４類）	制御システム工学	〃
	第5類		18（第５類）		
		電気電子工学科	82	電気電子工学	〃
		情報工学科	102	情報工学	〃
		社会工学科	4	社会工学	〃
	第6類	土木・環境工学科	*34	土木・環境工学	〃
		建築学科	*45	建築学	〃
		社会工学科	*21	社会工学	〃
生命理工学部	第7類	生命科学科	75	生命科学	〃
		生命工学科	75	生命工学	〃
		社会工学科	3	社会工学	〃
			1068		

(*) 国際開発工学科の所属人数については，既に学科が決まっている外国人留学生が含まれており，この所属人数から外国人留学生定員20名を差し引いた人数，20名とする。また，土木・環境工学科の所属人数については，総合問題Ａで合格した入学者のうち第一志望で同学科に学科所属する者を差し引いた人数とし，建築学科の所属人数については，同様に総合問題Ｂによる者，社会工学科（第６類）の所属人数については，同様に総合問題Ｃによる者を差し引いた人数とする。

３．学科所属にあたって

＜学科所属の要件等＞

学科又はコース（化学工学科に置かれるコースをいう。）に所属するためには、２学期以上在学し、次の科目及び単位を修得し、所定の期日までに志望申告を行う必要があります。

学科又はコース所属に必要な単位

文系科目（文系ゼミを除く）	４単位以上 注1)
国際コミュニケーション科目	６単位以上（２外国語 注2)）
理工系基礎科目	14単位以上
健康・スポーツ科目	１単位以上

注1) 平成17年度以前入学者は，文系基礎科目及び総合科目から４単位以上となる。

注2) 国際コミュニケーション科目６単位以上については，国際コミュニケーションⅠ（英語１、英語２）のほか，国際コミュニケーションⅡ（独・仏・露・中国語の初級１、初級２）のうち一外国語をもって満たさなければならない。

以下学科所属実施要項参照。

○東京工業大学学科所属実施要項

平成16年４月１日
学　長　裁　定

（趣旨）

第１条　この要項は，東京工業大学学部学習規程（平成16年規程第10号。以下「規程」という。）第16条に規定する学科又はコース（以下「学科等」という。）への所属（以下「学科所属」という。）及び第17条に規定する学科等の変更（以下「転学科」という。）の取り扱いに関し必要な事項を定めるものとする。

（類内学科所属）

第２条　規程第16条第１項に基づき，２学期以上東京工業大学（以下「本学」という。）に在学し，同条に定める科目及び単位を修得した者（以下「有資格者」という。）の学科所属は，当該有資格者が学科に所属するまでの間所属する類（以下「所属類」という。）内の学科等に所属（以下「類内学科所属」という。）することを原則とする。

２　類内学科所属については，所属類毎に定めた別記１及び別記２により取り扱うものとする。

（類外学科所属）

第３条　所属類以外の学科等を希望する者（以下「転類希望者」という。）の選考は，以下のとおりとする。

⑴　転類希望者は，「類外学科所属希望申告書」を，所属類主任を経て，学長が指名する理事・副学長に提出するものとする。

⑵　所属類以外の学科等を希望する場合，希望できる学科等は１学科等とする。

⑶　所属類から転出することができる人数は，当該所属類の有資格者の５％以内とし，所属類以外から転入することができる人数は，当該学科等が定める別表２の受入数以内とするものとする。

⑷　転類希望者の選考は，別表１に規定するＡ群，Ｂ群，Ｃ群の計12授業科目の合計得点（以下「共通得点」という。）の高得点順に行うものとする。ただし，選考の対象とする者は，共通得点が下記の条件を満たすものに限るものとする。なお，選考の結果，所属類以外の学科等に所属できなかった者は，類内学科所属を希望することができるものとする。

イ　経営システム工学科を志望する場合は，第３類及び第４類それぞれの有資格者の上位１／２以内の成績順位となる者のうち，それぞれの最も低い成績順位の者の共通得点を平均した得点以上であること。

ロ　制御システム工学科を志望する場合は，第４類及び第５類それぞれの有資格者の上位１／２以内の成績順位となる者のうち，それぞれの最も低い成績順位の者の共通得点を平均した得点以上であること。

ハ　社会工学科を志望する場合は，第２類から第７類までにおけるそれぞれの有資格者の上位１／２以内の成績順位となる者のうち，それぞれの最も低い成績順位の者の共通得点を平均した得点以上であること。

ニ　上記以外の学科等を志望する場合は，希望する学科等と対応する類の有資格者の上位１／２以内の成績順位となる者のうち，最も低い成績順位の者の共通得点以上であること。

（転学科）

第４条　現に学科等に所属している者（以下「学科生」という。）で，転学科を希望する者（以下「転

学科希望者」という。）は，所属する学科長又はコース長を経て学部長に願い出ることができる。

2　学部長は，当該願い出を適当と認めた場合は，当該転学科希望者が，本学に入学後，学科所属するまでの間に所属した類にあるものとし，次のとおり取り扱うものとする。

(1)　転学科希望者の希望する学科等が所属類内の学科等の場合，第２条の規定に準じて取り扱う。

(2)　転学科希望者の希望する学科等が所属類以外の学科等の場合，第３条の規定に準じて取り扱う。

(3)　転学科希望者が類内学科所属又は類外学科所属選考の結果，希望する学科等に所属できなかった場合は，当該転学科希望を行う直前の学科等に属するものとする。

3　転学科希望者は，転学科を希望する学科等の所属人数に特に余裕が有り，かつ，当該希望する学科等の属する学部の教授会において当該転学科希望者の学習状況その他を審査のうえ許可した場合は，前項の規定にかかわらず転学科できるものとする。

別表１

（所属類以外への学科所属）

群	授　業　科　目	得点に数える授業科目数
A群	微分積分学第一，同第二Ａ，同第二Ｂ，線形代数学第一，同第二Ａ，同第二Ｂ，物理学Ａ，同Ｂ，同Ｃ，化学第一，同第二，基礎生物学Ａ又は宇宙地球科学Ａ，基礎生物学Ｂ又は宇宙地球科学Ｂ，図学・図形デザイン第一若しくは同第二又は図学・図形科学第一若しくは同第二	左記授業科目中成績の良い科目から７授業科目
B群	微分積分学演習第一，同第二，線形代数学演習第一，同第二，基礎物理学演習，基礎物理学実験，化学実験第一，同第二，基礎生物学実験，宇宙地球科学基礎ラボ１又は同２又は同３，図学製図	左記授業科目中成績の良い科目から２授業科目
C群	英語１，同２，ドイツ語初級１，同２，フランス語初級１，同２，ロシア語初級１，同２，中国語初級１，同２	左記授業科目中成績の良い科目から３授業科目
計	35授業科目	12授業科目

備　考

1．平成17年度以前入学者は，本表のＣ群の「英語１」「同２」が「英語リーディング」「英語表現Ｗ」「英語表現Ｓ」となる。

2．平成17年度以前に，「図学第一」又は「同第二」を修得した場合は，本表のＡ群の「図学・図形デザイン第一」若しくは「同第二」又は「図学・図形科学第一」若しくは「同第二」に読み替えることができる。

3．平成20年度以前に「宇宙地球科学実験」を修得した場合は，本表のＢ群の「宇宙地球科学基礎ラボ１」又は「同２」又は「同３」に読み替えることができる。

別表２

学部	学科及びコース	受入数	学部	学科及びコース	受入数
理学部	数学科	１人	工学部	機械宇宙学科	２人
	物理学科	２人		制御システム工学科	２人
	化学科	２人		経営システム工学科	２人
	情報科学科	２人		電気電子工学科	４人
	地球惑星科学科	２人		情報工学科	４人
工学部	金属工学科	２人		土木・環境工学科	２人
	有機材料工学科	２人		建築学科	２人
	無機材料工学科	２人		社会工学科	３人
	化学工学科 化学工学コース 応用化学コース	 ２人 ２人		国際開発工学科	４人
			生命理工学部	生命科学科	４人
	高分子工学科	２人		生命工学科	４人
	機械科学科	３人			
	機械知能システム学科	２人			

別記１

第１類　類内学科所属

１．定義

第１類類内学科所属における用語の意義は，次の各号に定めるところによる。

⑴　「所属人数」とは，規程第16条第３項に規定する類内の各学科の所属人数をいう。

⑵　「比例値」とは，類内の有資格者から類外学科所属決定者を除いた人数を，類内の各学科の所属人数で比例配分した数をいう。

$$（類内有資格者数 - 類外学科所属決定者数）\times \frac{各学科の所属人数}{類内各学科の所属人数の総数} = 比例値$$

⑶　「比例人数」とは，比例値の小数点以下の端数を切り捨てた人数をいう。

⑷　「上限人数」とは，比例値に105%の率を乗じて得た数の小数点以下の端数を切り捨てた人数をいう。

⑸　「収容可能人数」とは，各学科の事情により設けた人数をいう。ただし，収容可能人数が比例人数に満たない学科については，類内の有資格者数が，類内の各学科の収容限度人数の総数を超える場合は，比例人数を収容可能人数とする。

⑹　「収容限度人数」とは，上限人数又は収容可能人数のいずれか少ない人数をいう。

２．手続

⑴　類内学科所属の申告は，所定の期日までに「類内学科所属志望申告書」を学長が指名する理事・副学長に提出する。

⑵　原則として，所属類内の第三志望までを志望順に記入する。

⑶　類外学科所属を志望する者が，併せて類内学科所属を志望する場合の所属類内の志望学科は第二志望からとし，原則として，第四志望までを志望順に記入する。

３．選考方法

⑴　第一志望の志望者数が，各学科の比例人数（収容可能人数が比例人数に満たない学科については，収容可能人数）を超えない場合は，第一志望の学科に所属を決定する。

⑵　上記⑴で所属を決定されなかった者については，各学科の収容限度人数の範囲内で，志望順位を優先し，別表に規定するＡ群，Ｂ群，Ｃ群の計12授業科目の総得点の高得点順に所属を決定する。

⑶　志望者の総得点が同一の場合は，収容限度人数を超えて所属を決定することができる。

⑷　上記⑴から⑶までで所属を決定されなかった者については，類主任が所属可能な学科の長と調整のうえ所属を決定する。

（第１類）

群	授　業　科　目	得点に数える授業科目数
A群	微分積分学第一，同第二Ｂ，線形代数学第一，同第二Ｂ，物理学Ａ，同Ｂ，同Ｃ，化学第一，同第二，基礎生物学Ａ又は宇宙地球科学Ａ，基礎生物学Ｂ，宇宙地球科学Ｂ，コンピュータサイエンス入門	左記授業科目中成績の良い科目から７授業科目
B群	微分積分学演習第一，同第二，線形代数学演習第一，同第二，基礎物理学演習，基礎物理学実験，化学実験第一，同第二，基礎生物学実験，宇宙地球科学基礎ラボ１，同２，同３	左記授業科目中成績の良い科目から２授業科目
C群	英語１，同２，ドイツ語初級１，同２，フランス語初級１，同２，ロシア語初級１，同２，中国語初級１，同２，TOEIC 試験	左記授業科目中成績の良い科目から３授業科目
計	36授業科目	12授業科目

備考１．平成17年度以前入学者は，本表のＣ群の「英語１」「同２」が「英語リーディング」「英語表現W」「英語表現Ｓ」となる。また，TOEIC 試験の点数を得点に数える授業科目数に入れることはできない。

２．平成18年度以降入学者にあっては，Ｃ群の TOEIC 試験は，本表において授業科目とみなす。（得点の換算：500未満0，500以上60＋40×(試験の点数－500)/300，800以上100）

３．平成20年度以前に「宇宙地球科学実験」を修得した場合は，本表のＢ群の「宇宙地球科学基礎ラボ１」又は「同２」又は「同３」に読み替えることができる。

別記２

第２・３・４・５・６・７類　類内学科所属

１．定義

第２・３・４・５・６・７類類内学科所属における用語の意義は，次の各号に定めるところによる。

⑴　「所属人数」とは，規程第16条第３項に規定する類内の各学科等の所属人数をいう。

⑵　「所属基礎人数」とは，各学科等の所属人数をいう。ただし，次のイからニまでに掲げる学科については，当該イからニまでに定める人数とする。

イ　国際開発工学科　所属人数から外国人留学生定員（20人）を除いた人数

ロ　土木・環境工学科　所属人数から総合問題Ａを受験し合格した入学者（最大５人）のうち第一志望で土木・環境工学科に所属を決定する者（以下「総合問題Ａによる所属決定者」という。）を差し引いた人数

ハ　建築学科　所属人数から総合問題Ｂを受験し合格した入学者（最大７人）のうち第一志望で建築学科に所属を決定する者（以下「総合問題Ｂによる所属決定者」という。）を差し引いた人数

ニ　社会工学科（第６類）　所属人数から総合問題Ｃを受験し合格した入学者（最大３人）のうち第一志望で社会工学科に所属を決定する者（以下「総合問題Ｃによる所属決定者」という。）を差し引いた人数

⑶　「比例値」とは，類内の有資格者から類外学科所属決定者を除いた人数を，類内の各学科等の所属基礎人数で比例配分した数をいう。ただし，第６類については，類内の有資格者から類外学科所属決定者並びに総合問題Ａによる所属決定者，総合問題Ｂによる所属決定者及び総合問題Ｃによる所属決定者を除いた人数を，類内の各学科等の所属基礎人数で比例配分した数をいう。

第２・３・４・５・７類

（類内有資格者数 － 類外学科所属決定者数）

$$\times \frac{\text{各学科等の所属基礎人数}}{\text{類内各学科等の所属基礎人数の総数}} = \text{比例値}$$

第６類

$$\left(\text{類内有資格者数} - \text{類外学科所属決定者数} - \begin{array}{l}\text{総合問題Ａによる所属決定者数，}\\ \text{総合問題Ｂによる所属決定者数及び}\\ \text{総合問題Ｃによる所属決定者数}\end{array}\right)$$

$$\times \frac{\text{各学科等の所属基礎人数}}{\text{類内各学科等の所属基礎人数の総数}} = \text{比例値}$$

⑷　「比例人数」とは，比例値の小数点以下の端数を切り上げた人数をいう。

⑸　「下限人数」とは，比例値に90％の率を乗じて得た数の小数点以下の端数を切り捨てた人数をいう。ただし，社会工学科（第２・３・４・５・７類）については，下限人数を設けない。

⑹　「上限人数」とは，比例値に110％の率を乗じて得た数の小数点以下の端数を切り上げた人数を

いう。ただし，社会工学科（第２・３・４・５・７類）の上限人数は，各類における社会工学科の所属人数にそれぞれ１人を加えた人数とする。

(7)　「収容可能人数」とは，各学科等の事情により設けた人数をいう。ただし，収容可能人数が比例人数に満たない学科等については，類内の有資格者数が，類内の各学科等の収容限度人数の総数を超える場合は，比例人数を収容可能人数とする。

(8)　「収容限度人数」とは，上限人数又は収容可能人数のいずれか少ない人数をいう。

２．手続

(1)　類内学科所属の申告は，所定の期日までに「類内学科所属志望申告書」を学長が指名する理事・副学長に提出する。

(2)　原則として，所属類内の全学科等を志望順に記入する。

(3)　類外学科所属を志望する者が，併せて類内学科所属を志望する場合の所属類内の志望学科等は第二志望からとし，原則として，所属類内の全学科等を志望順に記入する。

(4)　第２・３・４・５・７類において社会工学科を志望する場合は，第一志望又は第二志望に記入する。

３．選考方法

(1)　第一志望の志望者数が，各学科等の比例人数（収容可能人数が比例人数より少ない学科等については，収容可能人数）を超えない場合は，第一志望の学科等に所属を決定する。

(2)　第一志望の志望者数が，各学科等の比例人数（収容可能人数が比例人数より少ない学科等については，収容可能人数）を超える場合は，別表の類ごとに指定した授業科目の総得点により，比例人数（収容可能人数が比例人数より少ない学科等については，収容可能人数）まで高得点順に第一志望の学科等に所属を決定する。

(3)　上記(1)，(2)で所属を決定されなかった者については，志望者がいる限り各学科等の下限人数を満たすことを条件に，志望順位を優先し，収容限度人数の範囲内で，総得点の高得点順に所属を決定する。

(4)　志望者の総得点が同一の場合は，収容限度人数を超えて所属を決定することができる。

（第２類）

群	授　業　科　目	得点に数える授業科目数
A群	微分積分学第一，同第二Ｂ，線形代数学第一，同第二Ｂ，物理学Ａ，同Ｂ，化学第一，同第二，コンピュータサイエンス入門，微分積分学演習第一，同第二，線形代数学演習第一，同第二，基礎物理学演習	左記授業科目中成績の良い科目から8授業科目
B群	基礎物理学実験，化学実験第一，同第二，基礎生物学実験	左記授業科目中成績の良い科目から２授業科目
C群	英語１，同２，ドイツ語初級１，同２，フランス語初級１，同２，ロシア語初級１，同２，中国語初級１，同２	英語１，同２と英語以外の左記授業科目中成績の良い科目から１授業科目の合計３授業科目
D群	材料科学セミナー，材料科学Ａ	左記２授業科目
計	30授業科目	15授業科目

備考１．平成17年度以前入学者は，本表のＣ群の「英語１」「同２」が「英語リーディング」「英語表現W」「英語表現Ｓ」となる。

２．平成19年度以前入学者は「図学第一」又は「同第二」若しくは「図学・図形デザイン第一」又は「同第二」,「基礎生物学Ａ」又は「宇宙地球科学Ａ」,「基礎生物学Ｂ」又は「宇宙地球科学Ｂ」を本表Ａ群の授業科目に加えることができる。

３．平成19年度以前入学者について，本表Ａ群中の「微分積分学演習第一」「同第二」「線形代数学演習第一」「同第二」「基礎物理学演習」は本表Ｂ群の授業科目とする。また，「図学製図」をＢ群の授業科目に加えることができる。

４．平成19年度以前入学者は「基礎生物学実験」「宇宙地球科学実験」を両科目ともＢ群の授業科目として得点に数えることができる。

５．平成19年度以前入学者は本表Ｃ群の授業科目中成績の良い科目から３授業科目を得点に数える授業科目数とする。

６．平成20年度入学者は本表Ｂ群の「基礎生物学実験」を「基礎生物学実験又は宇宙地球科学実験」と読み替える。

（第３類）

群	授　業　科　目	得点に数える授業科目数
A群	微分積分学第一，同第二Ｂ，線形代数学第一，同第二Ｂ，物理学Ａ，同Ｂ，基礎生物学Ａ又は宇宙地球科学Ｂ，基礎生物学Ｂ又は宇宙地球科学Ａ	左記授業科目中成績の良い科目から５授業科目
B群	微分積分学演習第一，同第二，線形代数学演習第一，同第二，基礎物理学演習，基礎物理学実験，化学実験第一，同第二	左記授業科目中成績の良い科目から２授業科目
C群	英語１，同２，ドイツ語初級１，同２，フランス語初級１，同２，ロシア語初級１，同２，中国語初級１，同２	左記授業科目中成績の良い科目から３授業科目
D群	有機化学（工）第一，化学第一，同第二	左記３授業科目
計	29授業科目	13授業科目

備考１．平成17年度以前入学者は本表のＣ群の「英語１」「同２」が「英語リーディング」「英語表現W」「英語表現Ｓ」となる。

（第４類）

群	授　業　科　目	得点に数える授業科目数
A群	微分積分学第一，同第二Ｂ，線形代数学第一，同第二Ｂ，物理学Ａ，同Ｂ，同Ｃ，化学第一，同第二，基礎生物学Ａ又は宇宙地球科学Ａ，基礎生物学Ｂ又は宇宙地球科学Ｂ，図学・図形科学第一又は同第二，コンピュータサイエンス入門	左記授業科目中成績の良い科目から７授業科目
B群	微分積分学演習第一，同第二，線形代数学演習第一，同第二，基礎物理学演習，基礎物理学実験，化学実験第一，同第二，基礎生物学実験，宇宙地球科学基礎ラボ１又は同２又は同３	左記授業科目中成績の良い科目から２授業科目
C群	英語１，同２，ドイツ語初級１，同２，フランス語初級１，同２，ロシア語初級１，同２，中国語初級１，同２	左記授業科目中成績の良い科目から３授業科目
D群	工業力学第一，同第二	左記２授業科目
計	35授業科目	14授業科目

備考１．平成20年度以前に「宇宙地球科学実験」を修得した場合は，本表のＢ群の「宇宙地球科学基礎ラボ１」又は「同２」又は「同３」に読み替えることができる。
２．平成20年度以前に「図学製図」を修得した場合は，本表のＢ群に加えることができる。

（第５類）

群	授　業　科　目	得点に数える授業科目数
A群	微分積分学第一，同第二Ｂ，線形代数学第一，同第二Ｂ，物理学Ａ，同Ｂ，化学第一，同第二，微分積分学演習第一，同第二，線形代数学演習第一，同第二，基礎物理学演習，コンピュータサイエンス入門	左記授業科目中成績の良い科目から８授業科目
B群	５類Ｆ１ゼミ，基礎物理学実験，化学実験第一，同第二	左記授業科目中成績の良い科目から１授業科目
C群	英語１，同２	左記２授業科目
D群	情報基礎学，電気電子基礎学	左記２授業科目
E群	コンピュータリテラシ， 文系科目のうち１・２学期推奨の授業科目	左記授業科目中でコンピュータリテラシとそれ以外の成績の良い科目１授業科目
計		15授業科目

備考１．平成17年度以前の入学者の学科所属等に際し適用される表の内訳は，本表のＡ群に「物理学Ｃ」を含めた15授業科目，Ｄ群に「応用ベクトル解析」を含めた３授業科目，Ｅ群に平成17年度以前に修得した「文系基礎科目及び総合科目」のうち１・２学期推奨の授業科目を含めたものとする。また，本表のＣ群の「英語１」「同２」が「英語リーディング」「英語表現W」「英語表現Ｓ」となる。

（第６類）

群	授　業　科　目	得点に数える授業科目数
A群	微分積分学第一，同第二Ｂ，線形代数学第一，同第二Ｂ，物理学Ａ，同Ｂ，同Ｃ，化学第一，同第二，基礎生物学Ａ又は基礎生物学Ｂ，宇宙地球科学Ａ又は宇宙地球科学Ｂ，図学・図形デザイン第一又は同第二	左記授業科目中成績の良い科目から７授業科目
B群	微分積分学演習第一，同第二，線形代数学演習第一，同第二，基礎物理学演習，基礎物理学実験，化学実験第一，同第二，基礎生物学実験又は宇宙地球科学基礎ラボ１，図学製図	左記授業科目中成績の良い科目から２授業科目
C群	英語１，同２，ドイツ語初級１，同２，フランス語初級１，同２，ロシア語初級１，同２，中国語初級１，同２	左記授業科目中成績の良い科目から３授業科目
D群	６類特別講義第一，同第二	左記２授業科目
E群	文系科目のうち１・２学期推奨の授業科目	左記授業科目中成績の良い科目から１授業科目
計		15授業科目

備考１．平成17年度以前に「図学第一」又は「同第二」を修得した場合は，本表のＡ群の「図学・図形デザイン第一」又は「同第二」に読み替えることができる。
２．平成17年度以前の入学者の学科所属等に際し適用される表の内訳は，本表のＥ群に平成17年度以前に修得した「文系基礎科目及び総合科目」のうち１・２学期推奨の授業科目を含めたものとする。また，本表のＣ群の「英語１」「同２」が「英語リーディング」「英語表現W」「英語表現Ｓ」となる。
３．平成20年度以前に「宇宙地球科学実験」を修得した場合は，本表のＢ群の「宇宙地球科学基礎ラボ１」に読み替えることができる。

（第７類）

群	授　業　科　目	得点に数える授業科目数
A群	微分積分学第一，同第二Ａ，線形代数学第一，同第二Ａ，物理学Ａ，同Ｂ，同Ｃ，化学第一，同第二，基礎生物学Ａ又は宇宙地球科学Ａ，基礎生物学Ｂ又は宇宙地球科学Ｂ，図学・図形デザイン第一又は同第二	左記授業科目中成績の良い科目から７授業科目
B群	基礎物理学演習，基礎物理学実験，化学実験第一，同第二，基礎生物学実験，宇宙地球科学基礎ラボ１，同２，同３，図学製図	左記授業科目中成績の良い科目から２授業科目
C群	英語１，同２，ドイツ語初級１，同２，フランス語初級１，同２，ロシア語初級１，同２，中国語初級１，同２，TOEIC 試験	左記授業科目中成績の良い科目から３授業科目
計	32授業科目	12授業科目

備考１．平成17年度以前入学者は，本表のＣ群の「英語１」「同２」が「英語リーディング」「英語表現W」「英語表現Ｓ」となる。また，TOEIC 試験の点数を得点に数える授業科目数に入れることはできない。
２．平成17年度以前に「図学第一」又は「同第二」を修得した場合は，本表のＡ群の「図学・図形デザイン第一」又は「同第二」に読み替えることができる。
３．平成18年度以降入学者にあっては，Ｃ群の TOEIC 試験は，本表において授業科目とみなす。（得点の換算：試験の点数×1／9，100点を超える場合は100点とする。）
４．平成20年度以前に「宇宙地球科学実験」を修得した場合は，本表のＢ群の「宇宙地球科学基礎ラボ１」又は「同２」又は「同３」に読み替えることができる。
５．平成25年度以前入学者は，本表のＡ群に「微分積分学第二Ｂ」「線形代数学第二Ｂ」を，本表のＢ群に「微分積分学演習第一」「同第二」「線形代数学演習第一」「同第二」を加え，計38授業科目とする。

４．事務手続きの流れ

※　日程等の詳細は掲示等でお知らせします。

※　入学時に所属学科が決定している外国人留学生は、これらの手続きは必要ありません。

（11月頃）

① 学科所属予備調査（全員）

○教務Ｗｅｂシステムにより「平成27年度類内・類外学科所属志望申告（予備調査）」を登録

学科またはコース（以下「学科等」という。）への所属志望状況の実態を把握するため，予備調査を実施します。予備調査は，皆さんが学科等の所属志望を申告する際の参考資料にするためのものですので，後日掲示等でお知らせする指定日までに必ず申告してください。

この予備調査の結果（志望状況）は12月中～下旬頃にＨＰ上で公開予定です。

（１月頃）

② 転学科志望（＊既に学科等に所属している学生のうち志望する者のみ）

○「転学科志望願」の作成・提出

現在，既に学科等に所属している学生で，学科所属実施要項第４条第２項により，他の学科等の所属を志望する場合は，後日掲示等でお知らせする指定日までの提出が必要です。

（参考）
既に学科等に所属している場合，本誌掲載の学科所属実施要項第４条第２項による手続きのほか，同要項第４条第３項により転学科を申し出る方法があること，及び，学部学習規程第18条による標準学習課程に拠らない履修方法があることを踏まえ，所属学科長等と十分に相談してから，必要な場合にのみ，上記の手続きを行うことになります。

（１月頃～３月上旬まで）

③ 学科所属志望申告（全員）・成績開示

○教務Ｗｅｂシステムにより「平成27年度類内・類外学科所属志望申告」を登録

学科等の所属志望申告です。後日掲示等でお知らせする指定期間内に申告が必要ですが，限られた日時のみですので，あらかじめ公開する上記①予備調査の状況を参考にして，必ず申告期限までに申告できるよう注意してください。なお，この申告を行わないと学科等に所属できません。また，当該申告は，事後の訂正はできませんので，注意してください。

なお，後学期の成績は３月上旬に教務Ｗｅｂシステム上で開示します。

また，所属決定の発表は４月上旬に行います。

皆さんが第１志望の学科等に所属できることが望ましいですが，定員及び成績等の事情により，志望順位の低い学科等に所属する場合があります。

○『類外学科所属許可願』の提出（類外への学科所属を希望する場合のみ）

○『希望留年許可願』の提出（希望留年の場合のみ）

希望留年：基本的に全ての学科所属対象者は類内の全ての学科等を申告する必要があります（注）が，どうしても特定の学科等にしか行きたくない場合には類内の一部のみ志望することができる仕組みです。この場合，もし希望した学科等に行けなかった場合には類に残る（留年する）こととなります。

（注）１類については第三志望まで。

※第１類，第７類における TOEIC 試験点数認定について

平成18年度以降の入学者（第１類と第７類のみ）については，TOEIC 試験の点数を「学科所属にかかる得点に数える授業科目」として認定を受けることができます。

認定を希望する場合は，申請書にスコアシート(成績証明書)を添えて指定の期日までに申請することが必要です。

対象となる TOEIC 試験は，平成26年４月以降実施の TOEIC 公開テスト（本学又は本学生協が実施する TOEIC－IP を含む）です。なお，申請には換算点数61点以上が必要条件となります。

＊平成25年度以前の入学者で既に認定を受けている場合は，認定時の点数を再度申請することにより「学科にかかる得点に数える授業科目」とすることができます。また，平成26年４月以降の TOEIC 試験の点数により新たに申請することもできます。いずれの場合も申請の手続きが必要です。

１．TOEIC 試験点数認定申請予定日程

○申請書の配布　：平成26年10月1日（水）から
　　教務課にて配布

○申請期間　　：平成26年10月1日（水）から平成27年2月17日（火）

○申請書提出先　：教務課学部グループ（大岡山地区　西８－101）

（注）日程等は，変更することがありますので，掲示には十分注意してください。

２．点数換算について

○１類　500点未満　　０
　　500点以上　　60＋40×（点数－500）／300
　　800点以上　　100

○７類　点数×１／９　（但し，100点以上は100点とする）